

自然と共生「黄金の繭」和紙と共演

黄金の繭「クリキユラ」のシートや
美濃和紙などが壁に張られた中部千
年共生村。愛知万博長久手町、愛知万
博長久手会場



インドネシア・シヨグジャカルタ王妃会見

「世界の人人々に黄金の繭
を見てほしい」と語るシ
ヨグジャカルタ王妃リイ
ンドネシア・シヨグジャ
カルタ市内の王宮(撮影
・野尻健一郎)

性を活用した化粧品、健
康補助食品の開発を進め
たい」と語り、一シヨグ
ジャカルタの古い宮殿や
遺跡を修復し、遺跡めく
りなど観光ルートをつく
る。黄金の繭をきっかけ
に、日本の人々にもつ
と訪れてもらいたい」と
期待した。

インドネシアで生産され
た黄金の繭と呼ばれる「ク
リキユラ」を使った金色の
シートが、愛知万博の長久
手会場に出展される中部九
県パビリオン「中部千年共
生村」の外壁に張られた。
この壁には、眼福の美濃和
紙と山中和紙など中部九県
の和紙も使われており、黄
金に光る繭と和紙の組み合わせ
が来場者の注目を集めそ
う。伝統工芸の育成として
クリキユラの普及を推進す
るシヨグジャカルタ王室の
グステイ・カンジュン・ラ
トゥ・ヘイマス王妃は「世
界の人々に黄金の繭を見て
ほしい」と期待を寄せる。

中部パビリオン「輝き、ぜひ見て」

クリキユラは、もともと
とインドネシアに生息
する方で、農林業の害虫
として駆除されていた。
しかし、野生のガの繭か
らも良質のシルクが生
産されることが分かり、
同王室が、環境保全や伝
統工芸の振興を目的と
して、一九九四年に日本
から糸つむぎ技術の指
導を受けるなどし、産業
としての育成を進めて
いる。



「青虫」を「益虫」と
してよみがえらせ、虫を
殺さず繭だけを活用して
自然との共生を推し進め
てきたことが、愛知万博
のテーマである「環境」
に合致し、採用されるこ
とになった。

「中部千年共生村」の
外壁には、繭シート九十
枚(一枚・四尺×二尺)
が張られ、総量は百二十
六万個にも及ぶ。夜間は
照明もされて美しい黄金
色の壁が出現する。

万博開幕を前に、イン
ドネシアで岐阜新聞社の
インタビューストに
シヨグジャカルタ王妃は、
「自然環境との共生によ
る持続的な社会の構築を
目指し、さらに繭の機能



2005年、愛知万博の展示館外壁に使用される「黄金の繭シート」